

## 令和4年度 山紫会 事業報告

令和4年度は、現在の社会的課題コロナ禍が中々終息に向かわない状態を国・自治体・当法人も対応に苦慮致しました。

令和2年度より3年間続けてコロナ対策を求められ、本来の社会福祉事業を展開遂行するのも大変厳しいものでした。

半世紀以上の経験を持つ法人として今一度原点に立ち返り、法人理念を基に組織を成長強化させる為にも各事業を確実に効果的かつ適正に実行し、障害福祉と老人福祉の生活支援が上質で安定した事業となる経営に努めました。

令和4年度は、障害部門でも老人部門でもコロナクラスターを経験し、職員の感染者も多く厳しい時期もありましたが、利用者サービスの質を低下させぬよう事業運営を行いました。

### 「法人理念」

- 一、 地域住民、利用者の皆様の視点に立ったサービスの提供
- 一、 人権を尊重し、良質かつ安心、安全のサービスの提供
- 一、 公共性の高い法人であることを自覚し、社会的信頼に応える公正、倫理的な経営の実践

### 〈運営方針・努力目標〉

#### (1) 人材確保

2025年の問題(団塊の世代が後期高齢者となり、生産年齢者の減少と少子化)として、5年間で今後34~35万人の福祉職員の不足が予測され、我々にとって最重点課題であり、その対策として

- ・ 処遇改善と離職防止
- ・ 福祉機器の導入、活用
- ・ キャリアパスの整備
- ・ 外国人労働力導入の検討

#### (2) 公益性とガバナンスの確立

- ・ 自主性と自律性
- ・ 地域の共有財産としての認知を得る

#### (3) 地域貢献事業の推進

- ・ 災害時の支援体制の構築

・生計困難者レスキュー事業の対策

(4) 次世代への人材育成

## ○ 障害者福祉関係

通所部門の地域生活支援センター「さくら」やグループホーム「さくら」と就労支援事業所B型の内容が広く理解され、利用希望者も増加しています。

一方、入所施設の「白鳩園」「くぬぎ園」及びショートステイ(短期入所)も(居室の環境整備、福祉機器の導入)を行い、入所稼働率の改善を図る為に行政と緊密に連絡調整をとりながら稼働率のアップに努めました。

又、白鳩園とくぬぎ園共に最大の課題であります人員配置不足により私共が目標とする利用者処遇の域に達しておりませんので、継続して人材確保と離職防止に努めました。そして、職員各人のスキルアップが現行の課題であり促進していくよう努めました。

## ○ 老人福祉関係

小規模多機能型居宅介護事業「ののしまハウス」と併設の「のの花」、「ケアハウス」「菊香園」概ね定員に達している状況であります。又、ショートステイやデイサービスも競合する中で特徴を出してきました。

入所施設の菊香園一番館並びに二番館も入所希望も多く、その対応にこれまでの経験を生かし万全を尽くしました。

また、昨年来、老朽化した一番館改築改修の計画が令和4年度に計画通り着工され、補助事業であるユニット棟は令和5年4月末、二期工事は令和5年11月末に完成予定で進行しております。今後の超高齢化社会に環境と処遇の更なる向上を目指し、近代に即応した福祉サービス作りに努めました。

# 令和4年度 菊香園事業報告

## 【 運営方針 】

令和4年度は、国また我々の課題として、新型コロナウイルス感染症が様々な影響を与える事や災害への対応力強化、地域包括システムや自立支援、重度化防止の取り組み推進、介護人材の確保、制度の安定性を基に持続可能な施設運営が求められています。

以上を踏まえつつ、特に介護人材確保に創意工夫が求められる時代と受けとめられます。

その為にも当施設として今迄積み重ねた経験を最大限に生かしながら人材募集に努め、地域での役割と社会貢献を果たすべく、各種在宅サービス、ケアハウス、小規模多機能施設、サービス付高齢者向け住宅等の関連事業を傘の中に、地域の多様な介護ニーズを担う拠点としながら重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最期まで続けられるよう施設の「環境」「食事」「介護」を三本柱とし、医療ニーズ対応・認知症ケア・特に終末期看取りケアを行い、地域を幅広く支援し高齢者総合福祉施設として切れ目のないサービスと良質な介護維持に努める為に、職員業務もA I（人工知能）、I C T（情報通信技術）等を今まで以上に取り入れ、更なる社会的信頼の向上を目指しました。

また、今年度は老朽化した一番館の改築改修工事計画を進め、工事業者と契約実行に移し令和4年度完了を予定しておりましたが、アスベスト除去工事や工事現場の人員不足、ロシア・ウクライナ戦争の影響による資材調達の遅れ等により、令和5年4月末にユニット棟完成予定、二期工事は令和5年11月末の完成予定となり2ヶ年計画となりました。

令和4年度は、11月末から1月末にかけて一番館・二番館それぞれで大規模なクラスタを経験しました。職員の感染者も多く厳しい時期もありましたが、利用者サービスの質を低下させぬよう事業運営を行いました。

## 1、利用者生活の充実とサービス

- (1) 1番館の改築、新築工事中は利用者、職員の安全を第一に、滞りなく介護、看護を継続しました。
- (2) 生活施設として、家庭的な雰囲気の中で、個々の利用者に応じたサービスを行い、安全で充実した生活を支えました。情報の共有と多職種連携により、施設ケアプランに基づいたきめ細やかな個別ケアに努めました。更に利用者・家族

の多様なニーズに対応するため、相談援助等も迅速に対応しました。

- (3) 福祉用具（介護ロボット・見守りシステム等）の活用により、利用者が安心して、安全に生活出来る様、生活全般の支援を行いました。
- (4) 令和3年度の介護報酬改定に対して、引き続き柔軟に、確実に対応しました。
- (5) コロナ禍における施設イベント会場として2番館芝生広場の活用を行いました。  
『ラブラブ愛犬の会』は令和4年4月15日と11月18日の2回開催をし、利用者、家族、そして地域との交流に努めました。

## 2, 新型コロナウイルス対策

- (1) 利用者・家族に対し、離れていても家族として身近に感じられるように、窓越し面会、屋外面会を継続しながら、ホームページも充実させて近況報告を行いました。お誕生日ともう1回（年2回）、写真（色紙やアルバム）とコメントを送りました。
- (2) 職員に対して、マスク、消毒液等備品の充実と、コロナ感染シミュレーションを重ねて、感染に対応できる力を養いました。

令和4年度は6名の方が施設で看取りを行いました。看取り介護実施の際は、可能な限り利用者と家族の時間を設ける事が出来るよう努力しました。ただし、入室はPCR検査や抗原検査で陰性を確認し、人数と面会時間の設定を行い防護服（ガウン）着用のうえ可能としました。

## 3, 職員へのサポートと質の向上(働きやすい職場作り)

- (1) 常に福祉職員としての成長を目指し、利用者・家族・地域より信頼され期待される職員としての資質の向上の為に学習を充実させました。
- (2) 資格取得に対して、各種研修の参加、国家試験対策勉強会を行い、それぞれが自信をもって仕事ができるようにサポートしました。介護福祉士の試験では、今年度も1名の合格者を出しました。
- (3) 菊香園の紹介DVDで利用者や就職希望者への施設のPRを行いました。また、コロナ感染対策をしながらワークショップを計画しました。新人研修、中堅職員研修を行い、職員のモチベーション維持の為に、いつでも相談できる、風通しの良い居心地の良い職場作りを目指しました。身体的負担の軽減、腰痛予防には、腰痛ベルトと体操を継続しました。

## 4, 複合施設のメリットを活かす

障害者支援施設「白鳩園」、就労支援事業所「白鳩園」、白鳩園共同生活事業所「さくら」、地域生活支援センター「さくら」、障害者支援施設「くぬぎ園」等の各施

設との連携を密に、地域住民や利用者サービスが有効に機能する様、複合施設のメリットを十分に生かしました。

#### 5, 地域住民、家族、ボランティア他機関との連携

○実習受け入れ 高校・専門学校

## 令和4年度 居宅福祉事業部事業報告

### 【 基本理念 】

利用者が住みなれた地域で安心して生活を送ることができるよう支援しました。  
利用者一人一人のニーズと意見を尊重し、常に誠意をもって質の高いサービス・専門性の向上に努めました。

重度化に伴った医療ニーズへの対応と質の高い生活支援サービスを提供して、住みなれた地域で生活が継続できるように、介護保険による介護サービスのより一層の充実を行い、運営の効率化や安定化を図り、職員の専門性を高め、特に増加する高齢者と認知症者への介護サービスの質の向上に努めました。

### 【 努力目標 】

- 1, 利用者の尊厳を支えながら在宅重視と自立支援を目標に、より良いサービスを提供できるように努めました。
- 2, 認知症の利用者が今後も増加傾向にある、当事業所においても認知症ケアの充実を確保するため、職員は専門職としての知識・技術を備え、介護の本質的な理念を体得し、効率的な運営の実施に努めました。

### [居宅介護支援(ケアプラン)]

本人や家族の心身状況、環境、意思及び人格を尊重し、多種多様なサービスを総合的かつ効率的に提供できるケアプランを作成しました。

課題整理総括票を活用することでサービスの適性を明確にし、自立支援と重度化予防の観点を持ち、市や地域包括支援センター、医療との連携を図り、住み慣れた地域で自分らしい生活が営めるよう、住まい・医療・生活が一体的に提供できる支援に努めました。

### [通所介護事業(デイサービス)]

ケアプランに基づいた適切な介護計画を作成し、高齢者に外出の機会を与え、他者との交流を図る事により、社会的孤立感の解消や認知症予防、心身機能の維持向上を行う憩いの場として努めました。

また、介護者の介護負担を軽減し、一人暮らしの高齢者でも住み慣れた地域で自立した在宅生活ができるよう支援しました。

今後も、高齢者の増加となる為、機能訓練専門の看護師等を配置し個別訓練の強化に努めました。

また、総合事業にて要支援者に対して必要な「生活支援」「介護予防」を総合的に支援しました。

令和4年度は、利用者・職員共にコロナウイルスに感染し営業休止期間はあったものの、感染に注意を払い事業運営を行いました。

### [訪問介護(ホームヘルプサービス)]

介護者の状態を踏まえつつ、自立支援の観点に沿ったサービスの提供を実施し、利用者が可能な限り住み慣れた在宅において、日常生活が過ごせるように努めました。

また、総合事業にて要支援者に対して必要な「生活支援」「介護予防」を総合的に支援しました。

### [短期入所生活介護(ショートステイ)]

可能な限り自宅での自立した日常生活を送ること事ができるよう、孤立感の解消や心身機能の維持向上だけでなく、家族の介護負担の軽減を行い、24時間受け入れ可能な体制で利用者・家族の総合支援に努めました。

令和4年度は、母体の特別養護老人ホーム菊香園と共にクラスターを経験し、受け入れ態勢が厳しい中、感染に注意を払い事業運営を行いました。

## ※自主事業

### [高齢者総合相談支援事業]

今後も高齢者(一人暮らし・二人暮らし・認知症)の増加が見込まれることから、地域での生活を支えるためにも日常的な見守りが必要であります。地域住民の方や事業所等による日常的な見守り体制を構築することで高齢者・家族の皆様が安心安全な生活が地域で継続できるように「見守り」「安否確認」を行い合志市などと連携を図りながら緊急時などの早期発見に努めました。

尚、菊香園「自主事業」の為、無償にて取り込み地域と共に歩む社会福祉法人としての社会貢献といたしました。

#### (1) なんでも相談や安否確認の体制

- ・各種相談や申請手続きなど
- ・定期的な訪問や電話での『お元気ですかコール』での安否確認

#### (2) 緊急時や体調不良時には、訪問や救急車要請などの早期対応を図る

上記の内容にて高齢者の安心安全な生活をサポートして本人また家族の不安を解消しました。

## ※福祉有償運送事業

福祉有償運送とは

単独でバス・タクシー等の公共交通機関を利用することが困難な障がいのある人や要介護者、要支援者などを対象に、福祉有償運送運営協議会が認めた自家用自動車を使用して行う有料の輸送サービスのことです。

- 要件
- 1, 要介護度3から5の認定を受けている方
  - 2, 18歳以上で第1種身体障がい者の方
  - 3, 療育手帳A1、A2の交付を受けている方（支援学校在籍者含む）

※ 福祉有償運送は登録利用者数は2名程度であり、利用頻度も年に数回程度ということもあり、令和4年度末をもってサービスを終了致しました。

## ※地域各種との連携

合志市や地域民生委員などと連携を図りながら住み慣れた地域で安心安全な生活を図れるように高齢者や障がい者を支援していきました。

また、同法人の老人、障害部門、各種サービスと連携を図り広報活動を積極的に行っていました。



## 令和4年度 ののしまハウス事業報告

### 【 基本理念 】

私たちは、ひとりひとりの思いに誠実に向き合います。

私たちは、家族・地域のために、寄り添ったケアを行います。

小規模多機能型居宅介護が地域密着型サービスとして制度化され16年を迎え、小規模多機能型居宅介護を取り巻く環境も、国が推奨する地域包括ケアシステムにおいて、さらに期待が高まってきました。

このことを踏まえ、今後増加する高齢化世帯や認知症高齢者などを考慮し、住み慣れた地域で365日サービスを提供できる事業所として、24時間切れ目ない介護サービスの提供と、管理栄養士の献立によるバランスのとれた食事を提供し、食の安定を図りました。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、国や県からの指導に沿った感染予防に努めてきましたが、今年度も引き続き、行政や母体施設の菊香園、併設施設であるのの花と連携し情報の共有を図りながら、職員の感染防止に対する意識の徹底と感染対策シュミュレーションを定期的を実施し、感染症対応力の向上に努めました。

又、令和4年度は感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供できるよう業務継続計画（BCP）の作成にスタッフ全員で取り組み、職員の専門性と介護サービスの質の向上に努め、地域の皆様が安心して利用できる施設作りを目指しました。

令和4年度は、主に7月から8月にかけて併設施設ののの花と共にクラスターを経験し、新型コロナウイルス感染症に悩まされましたが、感染予防を行いながら事業運営を行いました。

### 【 通いサービス 】

利用者の思いやご家族の介護軽減を視野に入れ、利用者の個性を考慮しながらケアプランに基づいて、適切な支援を行いました。看護師による健康チェック実施、栄養士の献立による食事の提供・入浴支援・レクリエーション等を提供し、一日を楽しく安心して過ごして頂けるよう支援しました。

また、ご家族や関係機関と連携し住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しました。

## 【 泊りサービス 】

利用者の状況や家族の要望に合わせ、宿泊サービスを提供し夜間帯の介護サービスを提供しました。

## 【 訪問サービス 】

利用者の状態や家族の状況を考慮しながら、ご自宅へ訪問し在宅生活で生ずる多様なニーズに対して、自宅での生活を支援しました。

## ※自主事業サービス

### 〔高齢者一時預かりサービス〕

介護者が、何らかの事情（冠婚葬祭、買い物等）により外出される際、その間お預かりし支援します。希望により、食事や入浴を提供しました。

### 〔高齢者総合相談事業〕

#### 福祉総合相談所

地域の皆様や運営推進委員の協力のもと、地域の情報を収集し、ひとり暮らしや高齢者世帯、また日常的に見守りが必要な高齢者に対し、必要に応じた見守りや安否確認を行い、ご家族や地域住民の皆様が安心した生活を継続するためのサポート拠点としました。

## ※地域各種との連携

運営推進委員や合志市・地域民生委員などと連携を図りながら住み慣れた地域で安心安全な生活が送れるように、高齢者や障害者を支援していきました。

また、同法人の老人、障害部門、各種サービスと連携を図り、広報活動を積極的に行っていました。

## 令和4年度 のの花事業報告

### 【基本理念】

安心して生活できる住まいと真心ケアを提供します。  
地域との関わりを大切にします。

国が推進している「地域包括ケアシステム」では、生活の基盤として必要な住まいが整備され、高齢者のプライバシーと尊厳が十分に守られた住環境が必要とされています。

サービス付き高齢者向け住宅も制度開始から10年が経過し、高齢者の住まいの選択肢が増えたことで高齢者やご家族の意識も高まってきました。「の花」も開設から5年が経過し、高齢者の住まいとして、問い合わせも多く、申し込みも増加しています。

令和4年度も、自立から要支援・要介護の入居者に対し、「基本サービス」および介護度に応じた「生活支援サービス」の提供に合わせ、外部の介護保険サービスを継続的に利用していただき、利用されていない入居者を対象とした介護予防体操や趣味的活動など、入居者と一緒になり楽しむ事が出来るサービスの提供と管理栄養士の献立によるバランスのとれた食事や四季を感じていただける行事食メニューを提供する事で、入居者一人ひとりが安心して楽しみが持てる暮らしを支援しました。

また、コロナウイルスの感染拡大が長期化するなか、「菊香園」、「各種在宅サービス」「ケアハウス菊香園」「ののしまハウス」とも連携し、更なる感染予防対策に取り組みながら、サービスの選択肢の増大につなげ、切れ目のないサービス環境を整えることで入居者が最期まで安心して暮せる住まいづくりに努めました。

令和4年度は、主に7月から8月にかけて併設施設のののしまハウスと共にクラスターを経験し、コロナウイルス感染症に悩まされましたが、感染予防を行いながら事業運営を行いました。

### \*【基本サービス】

- 1、状況把握サービス
- 2、生活相談サービス
- 3、食事の提供サービス
- 4、見守りサービス

### \*【生活支援サービス】

- 1、食事、入浴、排泄の介助サービス
- 2、洗濯、住戸内清掃の家事サービス
- 3、健康管理サービス
- 4、更衣、清潔保持サービス等

## 令和4年度 ケアハウス事業報告

### 【 基本理念 】

私たちは家族のように寄り添い、安心して穏やかな生活を願い、豊かな人生の歩みをお手伝いします。

ケアハウスは、高齢者集合住宅として、開設28年目を迎えました。入居者にとってより一層、安全快適な生活環境を目指した運営と経営の充実を図りました。

ケアハウスでの生活を長く維持・継続していただけるよう、生活支援機能と環境作りを推進し、介護予防対策の観点からも入居者の心身状態の把握に努めました。入居者が参加できる行事や生き甲斐づくりの計画を立てていき、運動機器及びカラオケの設備が整ったりフレッシュセンターで体力の維持・向上をめざしました。また、地域住民とのふれあいを大切にし、地域の拠点としての役割を担いました。開設以来の方針である「終身介護対応型」として、ケアプランにより居宅福祉サービスを導入し、明るく安心した生活を支援し、関連施設のサービス付き高齢者向け住宅「のの花」とは特に連携を図り、複合施設のメリットを活かしながら入居者や家族のニーズを考慮した運営に努めました。

## 令和4年度 白鳩園運営・事業報告

基本理念としては、利用者の視点に立ち、良質かつ安心して安全なサービスの提供と、地域に開かれた福祉活動の拠点として、明るく楽しい活力のある施設を目指した。基本方針として、個人の尊厳を重んじ、利用者自身のニーズや目標に沿った、安心快適なサービスを提供し、支援とサービスの質の向上に努め、社会の一員として意欲と生きがいを持って地域生活ができるよう、「選択の尊重」と「自立生活」を基本として、良質なサービスの提供に努めた。

建物維持管理として生活棟の外壁塗装工事（2,057,000円）、就労棟の屋根塗装工事（3,443,000円）、生活棟・就労棟の屋外柱塗装工事（495,000円）を行った。くぬぎ園前駐車場整備として屋外LED照明装置を設置（891,000円）。空調機老朽化に伴うエアコン取替工事（生活棟廊下 484,000円、生活棟西B棟トイレ 159,500円、GHさくら東館食堂 528,000円）、生活棟食堂エアコン清掃（198,000円）、備品等老朽化に伴う買換え（生活棟食堂冷蔵庫 245,630円、就労棟食堂冷水器 106,480円、生活棟利用者用冷蔵庫 144,430円、GHさくら東館ドラム式洗濯乾燥機 143,000円）、老朽化に伴うガス給湯器取替工事（生活棟入浴用 195,800円、GHさくら西館 115,500円）、印刷課のオンデマンドプリンタの老朽化に伴う入替（4,398,240円/7年リース）を行った。

### [障害者支援施設 白鳩園]

- ① 自己選択・自己決定に基づいた支援と意思を尊重し個別支援計画の充実を図り、常に利用者の立場に立った生活ができるよう利用者サービスの向上を図った。
- ② 利用者の高齢化に伴い個々の健康や嗜好に配慮した食事提供と四季折々の季節感のあるメニューにより、楽しみのある食事を提供した。
- ③ 個々の残存機能・体力の維持を目指し、作業療法士による日中活動（創作活動）の充実、リハビリテーションの強化に努めた。
- ④ 長期化する新型コロナウイルス感染拡大を受け、職員・利用者引き続き感染防止に伴うマスク着用、手指消毒、温度管理及び換気を継続して感染防止対策を徹底した。
- ⑤ 新たにリフトを3台導入（4,054,820円内清水基金による令和3年度補助事業 2,800,000円）したことにより職員の腰痛予防及び、利用者の移乗の際の安心と安全性の更なる向上に努めた。

### [就労支援事業所 白鳩園]

- ① 長期化する新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、授産事業収益の部分的な減益も見込まれる中、利用者が日々充実した生産活動に取り組むことができるよう、全体的収益の維持と工賃の確保に努めた。
- ② 全ての利用者が生き生きと就労ができ、また、一人一人が各課において活躍できるような支援のアプローチを検討した。
- ③ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、職員、利用者ともに引き続き感染防止の意識向上とマスク着用、手指消毒等の感染防止対策に努め、ご家族との情報共有を図ることで感染を未然に防げるよう周知した。
- ④ 職員一人一人が常に就労支援の質の向上を意識し、障がい福祉に関する知識や情報の習得と支援技術向上を図った。

### [白鳩園共同生活事業所 さくら]

- ① 地域での安心安全な生活を提供すると共に、日中の就労支援事業所利用が順調に継続出来るように普段からの健康管理等の支援に努めた。
- ② 利用者の高齢化も徐々に進んでいる為、今後のグループホームの在り方や包括型グループホーム体制への移行等も考慮し、個々の利用者像にあった支援体制、施設運営の検討を図った。
- ③ 利用者本人、御家族は基より、日中の利用事業所、相談支援事業所等の関係機関との連絡調整を密に取りながら、個々のニーズにあった個別支援計画書の作成に努め、グループホームでの充実した生活を支援した。
- ④ 新型コロナウイルス感染症に対して引き続き、マスク着用、手指消毒の徹底、共有部分の感染防止対策を図った。

### [相談支援事業所 白鳩園]

特定相談支援事業所として、利用者のニーズに合わせたサービス等利用計画案を作成し、計画的・継続的に計画の作成を行い、サービスの決定又は変更後にサービス事業者等の連絡調整を行った。

### [白鳩園地域生活支援センター さくら]

- ① 地域で生活する障害者やご家族の視点に立ち、多様なニーズや特性に合わせて安心安全なサービスを提供できるよう努めた。
- ② 日中活動（創作活動）を通し、利用者一人一人の目標や目的に合わせた活動の場を提供し、歓びを感じていただくとともに、より生活の質を高めた。

- ③ 作業療法士による個別・全体訓練の充実、リハビリテーションの強化に努めた。
- ④ 白鳩園・くぬぎ園の事業と位置付け、これまでのノウハウを活かしつつ安定した良質のサービス提供を行い、新規利用者の受け入れを図った。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染拡大を受け、ホール内、送迎車両の消毒を行い、引き続き利用者にマスク着用、手指消毒を徹底した。
- ⑥ リフト使用により職員の腰痛予防及び利用者の移乗の際の安心と安全性の向上に努め、双方の身体・精神的な負担の軽減を図った。
- ⑦ 利用者増に伴い、トイレの改修工事を行いスムーズな支援を行った。

### <組織運営の強化>

- ・ 職員研修は積極的な参加を図るとともに、勉強会・各種会議・委員会等を充実させ個人のスキルを高めた。
- ・ 資格取得の強化を図るべく支援体制の整備を勧めた。
- ・ 個人の役割・責任を明確にする組織作りを行った。
- ・ 現場が働きやすい環境（ハラスメントの防止）・働き甲斐のある環境（業務改善・シニア層の雇用）を実現し柔軟な雇用体制により運営の安定に努めた。

### <地域福祉の拠点化>

- ・ 地域事業への取り組みと、生活介護事業「白鳩園地域生活支援センターさくら」を中心に、地域のニーズ・合志市の福祉計画等に則し、地域から信頼される施設作りを目指した。

# 令和4年度 くぬぎ園 事業報告

開設以来28年を迎え、新型コロナウイルスの変異株の流行により今後の経済の見通しもさらに不透明となっている中、昨年度喫緊の課題としていました人材確保も国内の人口構造の変化や働き方改革もあり、さらに厳しさが増している状況ですが、継続して努力しました。また、利用者の高齢化・重度化が進み、稼働率の低下が懸念される中、利用者の確保に努めながら、利用者との心の交流とケアを最重点項目とし努力しました。さらに今年度は、業務継続計画（BCP）の策定を行い災害や感染症発生時の事業の継続、早期復旧が可能となるよう備えました。また、当法人の理念である「地域住民、利用者の視点に立ち、良質かつ安心で安全のサービスの提供」のため、本年も基本方針を軸として施設運営に万全を尽くしました。令和4年度は、11月下旬よりコロナクラスターを経験致しました。職員の感染者も多数出ましたが、全職員で協力し事業運営を行いました。

## <基本方針>

- ・ 自立支援を基本とする個別支援計画に基づき、良質な基本サービスの提供を行った。
- ・ 接遇マナーの向上を心掛け、利用者の人権擁護、虐待防止の徹底に努めた。
- ・ 施設の特徴を活かした地域福祉の拠点作りを図った。
- ・ 職員一人一人が業務に対する責任を持ち、常に専門職としての研鑽に努めた。

## 1・利用者支援について

- ① コロナ禍の感染予防のための様々な活動制限の中、利用者の気持ちに寄り添った、個別支援計画に基づく良質な基本サービスの提供により、個別処遇の充実を図った。
- ② 虐待防止委員会の活動を明確にし、虐待防止の徹底・身体拘束の減少を図り、利用者が安心・安全・快適に暮らせるサービスの提供に努めた。
- ③ 身体及び嚥下機能の維持・向上のため日中活動を中心とした離床に努め、創作活動、機能訓練、各種クラブ活動などの充実により、リハビリテーション体制の強化を図った。
- ④ 栄養管理の充実による健康維持を図るため、季節感及び利用者の皆様の声を取り入れた献立の工夫により、毎日が楽しみとなるような食事提供体制に努めた。
- ⑤ 日頃からの健康・衛生管理による疾病の予防に努め、引続き新型コロナウイルス等の感染対策を徹底した。また重度障害者等へのたんの吸引等の医的ケア体制の充実も図った。

## 2・組織強化について

- ① 職員のあらゆる人材確保を進め、引き続き職員の負担軽減のためノーリフト及びICTの活用による積極的な業務省力化及び効率化などの業務改善に努めた。



- ② 組織力向上のため、個人の役割・責任を認識し、虐待防止委員会等の活動の徹底を図った。また、もしもの備えに災害及び感染症発生時の業務継続計画を策定した。
- ③ 職員研修システムの充実を図り、生涯研修として施設内研修会や勉強会も充実させた。また、資格取得の支援など個人のスキルアップも強く進めた。
- ④ 組織人として、日常生活の過ごし方等、家庭内を含めた感染予防に努めた。

### 3・施設整備について

- ① 個別処遇のための防音室の整備及び感染対策のための居室整備等を図った。また、ノーリフト活用のため福祉機器の購入、エアコンの一部取替え等、環境整備を行った。

### 4・地域福祉の拠点作りについて

- ① 圏域の障害者サービスの拠点と成るべく、7年目を迎える地域生活支援センター事業に白鳩園と合同で取り組み、コロナ禍での地域から信頼される相談・支援体制の充実を図ると共に災害時の受け入れ等の支援体制づくりにも努めた。
- ② 地域の生計困難者レスキュー事業の総合相談窓口として、合志市社会福祉協議会と積極的な連携を図り、更に法人の社会貢献事業としての実績を積み上げた。
- ③ コロナ禍での感染対策を図りつつ、介護実習・ボランティア実習などの受入れ体制を図り、また、外部団体等からのボランティア派遣要請にも応えた。